

まちがいさがし クイズ

問題

上下の絵を見くらべて、
まちがいを8カ所見つけてください。

応募多数のため、今号より当選者数を10人に増やしました！

応募方法

ハガキまたはファクスに、答えと住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を書いて応募してください。なお、当選者のお名前を広報がまごおり12月号に掲載しますので、ご了承ください。

送り先

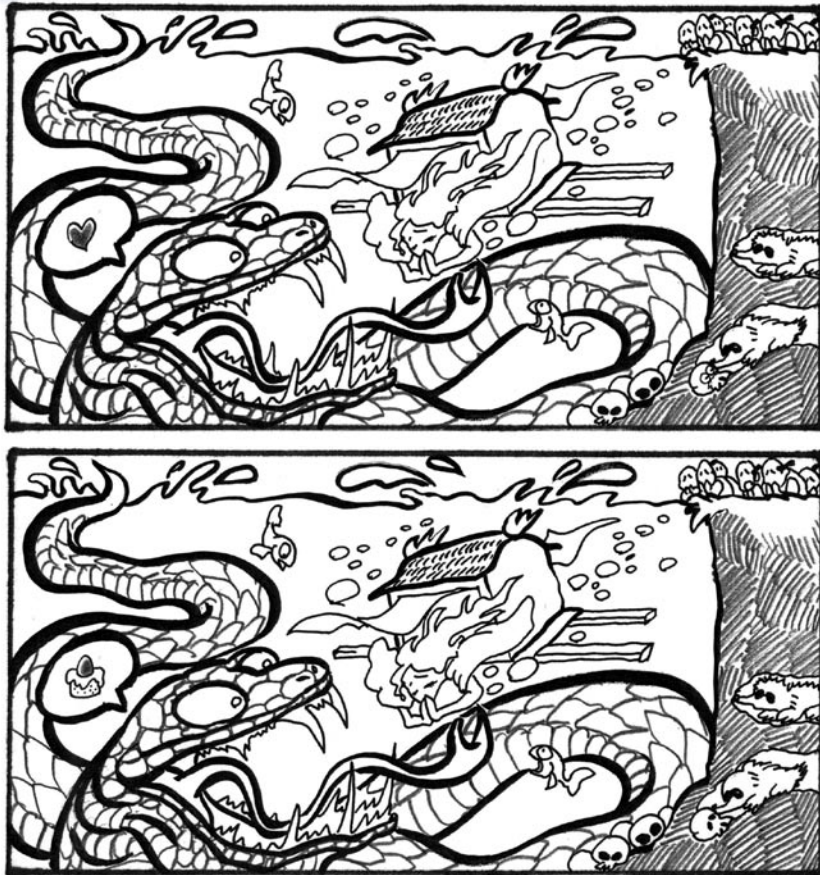
〒443-8601 旭町17番1号
企画広報課「クイズ」係
FAX66♦1190

応募締切

10月14日(水)当日消印有効

プレゼント

全問正解された方のうち、抽選で10の方にクオカードもしくはユトリーナバーデゾーン無料利用券をプレゼントします。なお、賞品は12月初旬に郵送します。



「羽栗池」(形原町)

※地元では「はぐろいけ」の愛称で親しまれています。

形原の里にある池の底深くに眠り続けていた大蛇が突如現れ、村人の命を奪うようになった。村人は不安でいっぱいになった。

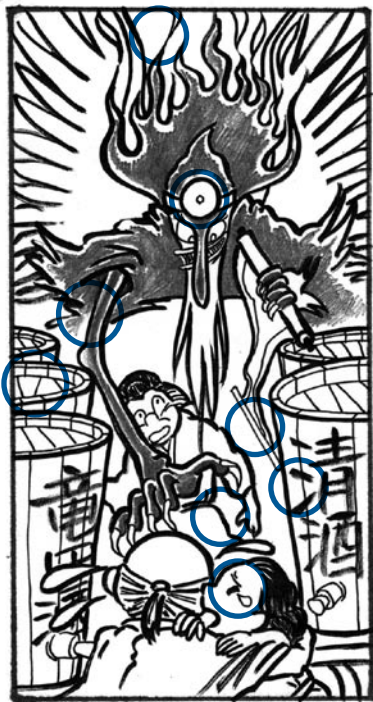
村人は村長(むらおさ)を中心にして、もとの平和な里に戻りたいと相談を始めた。しかし、話し合ってもなかなかいい考えが出てこず、そこで村長が「この前ちんじゅさんのお告げがあったように、村一番の美しい娘を大蛇に差し出すより仕方がねえように思う。」と言うと、他の村人も賛成した。いけにえの娘は、まご作の娘「羽栗(はぐれ)」に決まった。まご作は羽栗に「今、形原の里は大蛇のために滅びるか滅びないかの瀬戸際なんじゃ。村のみんなまで考えてもええ方法がねえ。それでちんじゅさんのお告げどおりにすることにされたのじゃ。羽栗、村を救うと思って」。羽栗は「私はこの形原の里が好き。死ぬのはこわいし、父さん、母さんと別れるのはつらいけど、この村を救えるというのなら、こんなに嬉しいことはありません」と両親に言った。

やがて、羽栗をいけにえにする日がやってきた。坊さんを先頭にいた行列が南無阿弥陀仏を唱えながら羽栗の乗ったみこしを池に沈めた。

羽栗が池に身を沈めてからは、あんなに暴れ、人の命を奪い続けてきた大蛇も、地上にその姿を見せなくなった。形原の里はもとの静かで平和な村に戻った。

その後、池は「羽栗の池」と呼ばれ、いつの間にか今では「羽栗池」と言われている。

◆8月号の答え



8月号クイズまちがいさがし(法辨さん)にたくさんのご応募ありがとうございました。応募総数は44通あり、正解者は34人でした。その中で抽選を行った結果、幸運な方は次の5人の方です。

当選者(敬称略・50音順)

竹谷町/小田瑛太 三谷北通/水藤砂代子 神ノ郷町/瀬古朝子
宝町/長坂博 形原町/村松由理
おめでとうございます。賞品は10月初旬に発送します。